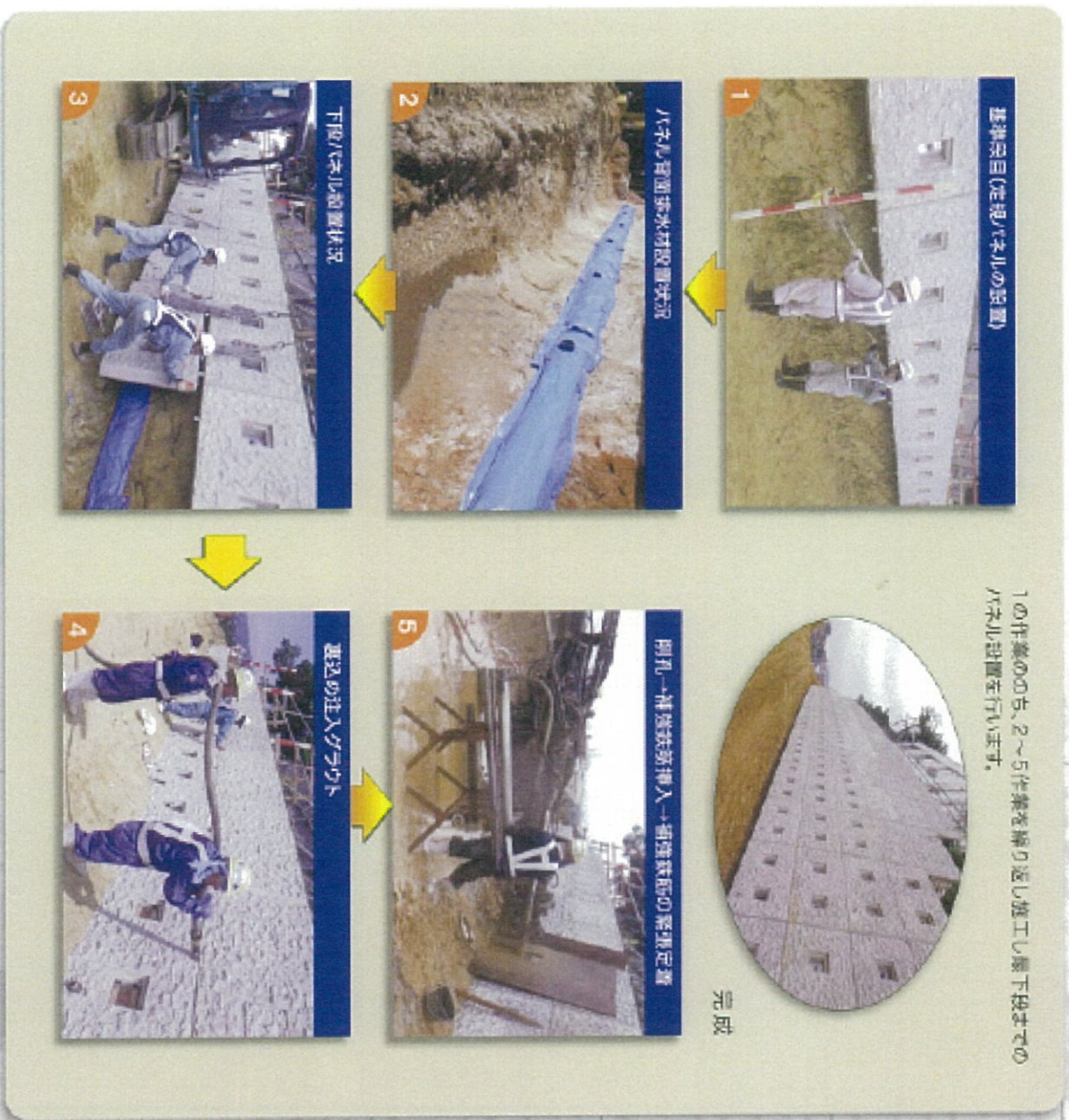


技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	安全・防災	維持管理	環境	コスト	ICT	品質	(該当する分類に○を付けてください)																			
技術名称	R B P オール工法			担当部署		九州支店営業部																				
NETIS登録番号	QS-160035-A			担当者		石渡裕一郎																				
社名等	R B P オール工法協会			電話番号		092-558-2171																				
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機 RBPオール工法は、切土法面を補強しながら法面上方より切り下げにくい逆巻き工法です。従来の逆巻き工法は、コンクリートパネルと地山に挿入された補強鉄筋との組合せによって、切土補強土工が構成されていました。本工法の特徴は①補強鉄筋と②コンクリートパネル、及びそのコンクリートパネルを切土高さ方向に③PC鋼棒で緊張連結することにより、切土法面全体の安定性を高める工法です。 2. 技術の内容 RBPオール工法とは、現況の地山を上方よりカットして急勾配法面を形成する、逆巻き工法です。カットした法面はリバースボルトパネル(コンクリートパネル)を補強鉄筋で地山に固定していきます。リバースボルトパネルは各段毎にPC鋼棒で上下方向に緊張連結していきます。 3. 技術の効果 PC鋼棒連結によるストレス効果により、耐震性の向上、及び基準段パネルからの方への逆巻き施工のみならず、上方への延伸(順巻き)も施工可能となります。また、掘削する地盤条件によって、各段毎の1段施工ではなく、2段施工も可能であるため工期の短縮が図れます。さらに、各段の掘削後におけるリバースボルトパネルは、上段のリバースボルトパネルに即座にPC連結されるため、施工性に優れ、作業の安全性が確保されます。 4. 技術の適用範囲 ①適用可能な範囲 ・切土勾配 1:0.1～1:0.5 ・高さ 20m以下 ・アンカー長 10m以下を標準とするが、現地状況(地質等)に応じて延長することができる。 ・パネル壁面は曲面施工が可能(水平方向の曲率半径100m程度) ②特に効果の高い適用範囲 ・用地制限(地中権を含む)のある箇所 ・逆巻による施工箇所 5. 活用実績 <table border="1"> <tr> <td>国の機関</td> <td>6 件</td> <td>(九州</td> <td>5件</td> <td>、九州以外</td> <td>1件)</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>15 件</td> <td>(九州</td> <td>11件</td> <td>、九州以外</td> <td>4件)</td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td>4 件</td> <td>(九州</td> <td>2件</td> <td>、九州以外</td> <td>2件)</td> </tr> </table>								国の機関	6 件	(九州	5件	、九州以外	1件)	自治体	15 件	(九州	11件	、九州以外	4件)	民間	4 件	(九州	2件	、九州以外	2件)
国の機関	6 件	(九州	5件	、九州以外	1件)																					
自治体	15 件	(九州	11件	、九州以外	4件)																					
民間	4 件	(九州	2件	、九州以外	2件)																					

RBPオール工法の施工順序



★ 基準段より上方への延伸も可

★ PC鋼棒によるパネル連結

